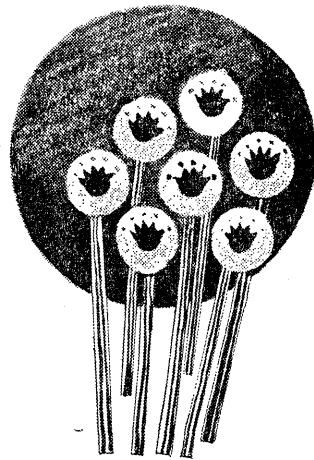


おかあさんがおこった

矢崎 淳子



「ねえ、おかあさん。なんかおなかすいたア。」

さっきから、なんべんも、いつているのです。でも、おかあさんは、しらんかお。ペラ  
ンダで、せんたくをしています。よこでは、いもうとが、なにかを、かちやかちやいじっ  
ています。きのうも、そのまえも、ずっと、雨がふっていました。せんたくものは、おへ  
やのなかにほします。したからみあげるとジャングルみたい。きのうはジャングルにいる  
つもりで、たんけんごっこをしていたくらいです。

「ねえ、おかあさん、なんかたべたい。」

おかあさんは、こちらをみると、すこし、口を、とんがらせてみせました。

「わかこちゃん。あさごはん、たべたばかりでしょ。あんなにたくさんたべのこしちゃ

つて、いまごろおなかすいたなんて。テーブルのうえにまだあるから、たべなさい。」

わかこは、テーブルのうえをみました。わかこのおさが、ポツンとひとつ、のっています。おさらのうえには、ほうれんそうのゆでていためたようなのと、たまごのはんぶんがおはしでつつかれて、よこをむいてのっています。

「こんなのやだ。たべたくない。」

「じゃあ、たべるものないわよ。」

「ハムちょうだい。」

「ありませんよ。ぎゅうにゅう、のんだら。」

「いやだ／＼。だって……さっきから、おなかすいたっていつてるでしょ。」

「なにがだつてですか。おかあさんはあさごはんをちゃんとなんとたべないひとには、おやつはあげませんよ。」

「いやだ。おやつほしいよう……うえーん。」

わかこはなきだしました。いもうとがこつちをみて、にこにこしています。おかあさんは、せなかをむけて、おせんたくのつづきをはじめました。

「おかあさん、ねえ、おかあさんたらア」

「なあに」

「あそんで」

「なにして？」

「なんでもいいから。えほんよんで。」

「あのね。わかちゃん。おかあさんね、いまやってしまわなきゃならないことが、こないなにいっぱいあるの。」

おかあさんは、りょうてをひろげてみせました。

「おわったら、あそんであげるから、いまはむこうで、あそんで。」

「おかあさんのバカ、ケチ、ケムシ。」

「そうそう、バカ、ケチ、ケムシでけっこうよ。」

わかこはとおりがりに、いもうとのあたまを2回たたいていきました。こうして、あさはすぎました。わかこは、おひるまで、なにももらわないでいたでしょうか。いいえ10じのおやつに、ビスケットと、ほしぶどうをすこし、もらいました。ほうれんそうも、たまごも、たべないままで、おかあさんは、おやつをすこしかくれなかったのですが、わかこは、こっそりいもうとのぶんを、よけいにとったのです。なほこはおこりました。でも、このこはまだあまりしゃべれないので、おかあさんにいつけられないのです。雨はざあざあまだふっていて、きょうもおせんたくものはかわきそうにありません。

おひるになりました。おかあさんは、おへやにならんだ、せんたくものをまゆにしわよせて、ながめまわし、ためいきをつきました。

「みっかもこうだと、うっとしいわね。」

おひるごはんは、ラーメンです。

「わかこちゃん。みんなのおはしをならべてちょうだい。」

「ええっ。やったら、なにか、いいものくれる？」

おかあさんは、ちよつとよこめでわかこをみて、それからいいました。

「ラーメン、あげるわ」

「じゃ、やだよ。きのうもラーメンだったもん。」

おかあさんは、「ムーッ」とおおきなこえでいつてから、じぶんで、おはしをならべ、いもうとを、いすにすわらせました。この「ムー」は、おかあさんがすこしより、もうちよつとだけたくさん、おこったときのこえなのです。

「いただきますしやう。わかちゃん、いすにすわって！」

「ちよつと、まって」

「まってるのよ。」

わかこは、このあと、おかあさんが、「10かぞえるうちにすわらないと……」というのをきいて、1からはじまって、8までかぞえたのをきいて、9のこえとどうじに、いすにすわりました。わかこは、おどんぶりのなかをみて、いやだなッとおもいました。だってあさのほうれんそうが、またはいつているのですた。

「えーっ、こんなにたべられない。いやだ、このほうれんそう！」

わかこは、てでほうれんそうをつまみだすと、テーブルのうえにならべました。

「こらっ。なにするの。ちゃんとたべなさい。」

おかあさんの目が、よこにはそながーくなり、わかこをにらんでいます。

「なほちゃんだって、やってるじゃないの。わかこばかり、おこって！」

おかあさんは、なほこをみました。なほこはてで、ほうれんそうとラーメンを、ぐちゃぐちゃに混ぜながら、たべています。

「なほちゃんと、あなたが、おなじですか！」

「こんなもん！」

テーブルのうえのほうれんそうをつかむと、なげつけました。かわいそうに、なげつけられたほうれんそうたちは、どこにくっついたのでしょうか。……おかあさんのかおと、なほこのかおと、それに、どうしたことか、なまがわきのせんたくものにまで。

あつとおもうまもなく、せなかまでびくくとするようなおおごえ。

「コラァ！ わかこ」

おかあさんは、まっかです。目はまえよりもっとほそながく、もう、カチンカチンにおこって、おはしで、ラーメンをかきまわしているのです。すごいスピードで、かきまわしているの、おつゆはとぶ、やさいはこぼれる。「あーあ、おかあさんばくはつだ」こんなにおこったのは、このまえはいつだったでしょう。わかこはおおいそぎで、いいました。

「ごめんなさい。ごめんなさい。……」

おかあさんは、まだ、かきまわしながら、にらんでいます。さらに、わかこは、10ぺんくらいいいました。

「ごめんなさい。ごめんなさい。……」

ラーメンを、かきまわしていたが、ぴたっと、とまりました。

「よし。きめた。たべたくないなら、たべないでよろしい。たべものをそまつにするのは、おかあさんはぜったいきらいなの。ゆうはんまで、おやつぬぎ、なにもたべないでいなさい！」

というわけで、とうとうわかこはほんとになにもたべずに、いままでいるのです。そろそろ、ゆうごはんときです。もう、おなが、きゅうきゅうです。「ごはんよ」といわれると、わかこはいちばんにテーブルにつきました。ゆうはんのおかずは、ほうれんそうのはいったちやわんむしと、おさなかです。でも、ふしぎです。ほうれんそうが、こくこおのどをとおります。ごはんも、おさかなはもちろん、にんじんまで。おとうさんが、おどろいていました。

「きょうは、わかこもおかあさんも、すごいしょくよくだね。なんでもたべてえらいね。」だって、ほんとうになんでも、おいしかったんですもの。もう、おなかいっぱい、にこにこしています。これで、わかこのおかあさんがおこったおはなしは、おしまいです。おかあさんは、どうしたかって？ ごしんばいなく。もちろん、もうぜんぜんおこってなにかいません。あしたは、はれになりそうだし、みんなのおさらはからになるしで、うれしそうに、だいどころでうたをうたってますよ。

おわり